

- 1 日 時 平成19年11月〇日(〇) 〇校時
- 2 学年・組 第1学年〇組
- 3 単元・教材名 真実を語る・「未来をひらく微生物」(大島泰郎)
- 4 単元について

○ 生徒観

本学級の生徒は、いろいろなことに前向きで、多くの生徒が何事にも意欲的に取り組む。中でも、前に出て発表することや話し合って面白い意見を出すことが得意である。また、小学校から朝読書の習慣が身に付いており、文学的な文章や物語を読むことに対する抵抗感はないものの、説明的な文章を読むのは苦手と考えている生徒も多い。とりわけ長い文章を、自分の意見を交えて論理的に書くことに苦手意識をもつ生徒が多い。したがって、班での話し合い活動を効果的に取り入れて学習に取り組ませるなどの手だてが必要であると考ええる。

子どもたちは、4月、5月の「ちょっと立ち止まって」「クジラたちの声」の学習を通して、文章の組み立て(「導入(問題提起)」「本文」「まとめ」)について学習した。「クジラたちの声」では、実際にこの組み立てや段落ごとのつなぎの表現(「まず」「次に」など)を使って、「人間同士のコミュニケーションについて」という題名で作文を書く経験をしている。下書きから丁寧に組み立てを考えることで、相手に伝わる表現を模索していくことの大切さは実感できたと思われるが、実際の表現はまだ十分とは言えず、今後も、さまざまな説明的な文章に触れ、よりよい表現の仕方を探求していくことが必要であると考ええる。

本校では、毎年、第1学年の1月頃から、総合的な学習の時間を使って「環境問題」について調べ学習を行い、レポートにまとめ、発表用の原稿を考えてみんなの前で発表するという学習を行っている。各クラスから2名ずつ選ばれて本選に臨み、学年生徒の前でプレゼンテーションを行うことになっている。そのスピーチ原稿作成の際に、「ちょっと立ち止まって」「クジラたちの声」で学んだ組み立てやつなぎの表現、そして、本教材で学ぶ「～のである」などの「わざわざ表現」を意識して有効に使えるような場を設定することで、教材文の読み取りを、自分の表現に生かすことができた実感をもてるようにしたい。

○ 単元観

本教材は、18の段落からできており、大きく三つのまとまりに分けられる。

- ①微生物とその働き(導入)
- ②環境問題の解決策として微生物を利用する二つの試み(本文)
- ③筆者の主張(まとめ)

また、段落の初めに「まず」「そこで」「だが」などの接続語や、「このように」「これらの」といった指示語を用いることにより、それぞれの段落の関係と役割が非常につかみやすくなっている。さらに、読者を説得するために、わかりやすい例を用いる工夫も成されている。

筆者は、未だに微生物の可能性を迫りかけている科学者である。この事実を踏まえて、本教材は、相手を説得する・自分の主張に引き込んでいくためにどのような工夫が成されているのか、あるいは、必要なのかについて、筆者の提示する「例」や「まとめ」の述べ方、そして「題名」にこだわりながら考えさせることができる。また、筆者が、情熱や信念を持って強く伝えている部分と、まだまだ可能性という段階でしかない「微生物のすばらしさ」を伝えきることができないもどかしさが表れている部分とを読み分け、なんとかして読者に分かってもらおうとする筆者の意図や工夫を探していく学習活動が、生徒が実際に説明をしたり、説明を聞くことスキルアップにつながっていくと考える。

第1学年で行うスピーチ大会のテーマは「環境問題」である。1月から始まる総合的な学習の時間の活動と関連付けることによって、説明的な文章の読みを自分の表現に生かすよさを実感できる単元となると考える。

○ 指導観

指導にあたっては、まず、ワークシートを用いながら、

- ①段落の役割に着目し、文章の構成や展開を正しくとらえる。
- ②微生物と環境に対する筆者のものの見方や考え方を理解する。

ことをまず行う。その上で、

- ③環境問題についての関心を深める。
- ④意識して表現することの大切さを知り、どうすれば効果的に相手に納得してもらえ表現

にすることができるのかを考え、実際に表現してみる。  
 という展開にしていきたい。

そのために、筆者は、自分が伝えたいことをどのように述べているか、自信がない部分であっても、それをどのような述べ方でカバーし、読者を自分の文章（説明）に引き込んでいるか等を班で話し合いながら具体的に見付けていくことを通して、単に教科書の文章を鵜呑みにするのではなく、納得できる述べ方かどうかを「評価」したり、筆者の意図を考えながら読んだり聞いたり批判したりできる力を育てたい。

### 5 単元の見どころ

- 筆者の考え方を読み取り、効果的な表現の仕方を知る。（読む能力 ウ・オ）
- 筆者の論述の仕方を自分の表現に生かす。（書く能力 ウ）

### 6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
○筆者の論述の仕方について理解し、自分の論述の仕方を見直し、表現しようとする。  ○スピーチでは、表現の仕方を相互評価し、自分の表現を見直し、高めていこうとする。	○教材文を読み、文章の構成や展開を正確にとらえ、筆者のものの見方や考え方の理解に役立てる。	○文章の中の段落の役割や段落内の各文の接続関係などを考えて読むことができる。  ○つなぎの表現、「～である」などを使う筆者の意図を考え、自分の表現に生かすことができる。
	書く能力	
	○自分の考えを的確に表すために必要な材料を集め、相手に効果的に納得してもらえる文章を書く。	

### 7 単元の学習と評価の計画

次/時	学 習 活 動	評価の観点				評価規準・評価方法
		関・意・態	読むと	書くと	言語事項	
一 次 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読む前に、微生物について知っていることを発表する。</li> <li>・教材文を読み、大まかな内容をつかむ。</li> </ul>	○			○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文の内容について興味を持ち、すすんで内容を読もうとしている。</li> <li>・分からない言葉を調べ、内容理解に役立たせようとしている。 ○ワークシート ○副教材「国語の学習」</li> </ul>
二 次 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章全体の構成をつかみ、第一のまとめ（導入）から微生物の働きを読み取る。</li> <li>①教材文の「段落」に注目し、全体を内容から大きく三つのまとめに分ける。</li> <li>②第一のまとめ（導入：微生物とその働き）について、ワークシートを使ってまとめる。</li> </ul>		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・どの言葉に注目して内容段落を分けるか、きちんと考えようとしている。</li> <li>・既習の「クジラたちの声」で学んだ「導入」「本文」「まとめ」を思い出すことができる。</li> <li>・科学技術がもたらした良い面・悪い面、微生物の活躍などを教材文から読み取り、自分の生活と照らし合わせて考えようとしている。 ○ワークシート</li> </ul>

二時	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二のまとめ（本文：環境問題の解決策として微生物を利用する二つの試み）について読み取り，筆者の表現の工夫について考える。</li> <li>①微生物を利用して環境問題を起こさない製品を作る試みについて，段落相互の関係に基づいてまとめる。</li> <li>②すでに汚染された環境を微生物の力で元に戻す試みについて，段落相互の関係に基づいてまとめる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・接続詞に注目して，どのように論理が展開されているか（筆者の表現方法と構成上の工夫）をつかもうとしている。</li> <li>・従来のプラスチックの利点と欠点，それを生分解性プラスチックがどう補っているか，プラスチック以外の微生物の利用についてまとめることができる。</li> <li>・二つの方法とその身近な例，それに対する注意と筆者の提示する身近な例についてまとめることができる。</li> </ul> <p>○ワークシート</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第三のまとめ（まとめ）を読み，結論をまとめる。</li> <li>①第三次の学習につながっていくように，筆者の「述べ方」を意識させながら読む（疑問を持った読み方をする）。</li> <li>② P134 の最後の段落の文が，「～に違いない」「～だろう」という表現で終わっていることに注目する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が読者に伝えなかったことや「述べ方」の工夫を読み取ろうとしている。</li> <li>・1月～3月の環境問題スピーチ原稿作りのことを前提にして，地球環境の問題について，微生物の他に「自分が調べてみたい」ということを考えようとしている。</li> </ul> <p>○ワークシート ○副教材「国語の学習」</p>
三時	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の「述べ方」から，筆者の意図，筆者の記述の自信度，根拠の有無について考える。</li> <li>①導入の部分から，筆者が自信を持って訴えている部分はどこかを探す。</li> <li>②本文の部分から，「～のである」表現を探し，「～のである」でなければ，表現はどう変わってくるかを考える。</li> <li>③まとめの部分から，題名「未来をひらく微生物」について考える。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・「～のだ」「～のである」と書かれている部分と，そうでない部分の表現の違いを考えようとしている。</li> <li>・説得力のある表現とはどんなものかを具体的に考えている。</li> <li>・筆者の曖昧な表現に気付き，その意図や自信度等を読み取ることができる。</li> </ul> <p>○ワークシート</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にスピーチをするための下準備をする。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・現段階で，何に興味を持ち，何を調べて発表をしたいか，自分の意見を整理して書こうとしている。</li> </ul> <p>○ワークシート</p>
備考	<p>1月 地球環境問題の調べ学習（図書室・インターネット）</p> <p>2月 スピーチ原稿作成 学級スピーチ大会を行い，生徒の相互評価により，各学級2名程度の本選出場者を選出</p> <p>3月 本選出場者のスピーチ原稿推敲 スピーチ大会本選</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科での学習を生かして，聞き手に納得してもらえる原稿づくりや「述べ方」の工夫をしている。</li> </ul> <p>○スピーチ原稿 ○相互評価</p>

8 本時の目標

筆者の「述べ方」をより深く学び、説得力のある表現とは何かを考える。

9 本時の学習展開

学 習 活 動	指導上の留意事項	評価規準・評価方法
<p>1 前時までの学習を想起する。</p> <p>2 誇大広告ではないかと思われる例文を基に、「疑問を持った見方」を知る。</p> <p>3 導入部分を読み、筆者が自信を持って述べている部分を探し、説得力のある述べ方とはどんな表現かを班で考える。</p> <p>4 本文部分を読み、「わざわざ表現」を見付けて線を引き、相手を説得するための表現の工夫について考える。</p> <p>5 まとめの部分を読み、題名に込められた筆者のものの見方や考え方について考える。</p>	<p>○筆者が巧みに使っている文頭の表現（「まず」「だが」「そこで」「次に」「第一の方法は」などの接続語等）を確認する。</p> <p>○説得力があるので、つい本当だと思っていたが、「本当にそうなの？」という見方があることを紹介し、「見せかけに騙されず、疑問を持った見方をしてよく考える」ことの大切さに気付くようにする。</p> <p>○説得力のある述べ方とはどんな表現かを考える視点を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文末表現に注目する。</li> <li>・逆に、説得力のない表現にも着目する。</li> </ul> <p>○特に、「例」のところに注目させ、相手を説得するためには、事実の羅列をするだけでなく、表現の工夫が必要なことに気付くようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ P133「もう一つの方法」の例は「～のである」と言い切れないのかを考える。</li> <li>・さらに、  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     環境汚染を減少させるために、工業排水の解毒処理を目的とし、遺伝子操作したバクテリアによる空気分解過程が研究されているが、これまで限定的な成功しか得られていない。                 </div>                     という事実を提示する。</li> </ul> <p>○最後の一文の文末表現「教えてくれるだろう」に注目させ、「～だろう」という表現なのに、なぜ題名は「未来をひらく微生物」ときっぱり言い切っているのかについて考えさせる。</p>	<p>&lt; A : 十分満足できる &gt;                      相手を説得するためには文末表現や文章の構成・展開を工夫しなければならないことに気付き、意図や自信度、根拠の有無に応じた表現をしようとする。</p> <p>&lt; B : 概ね満足できる &gt;                      自信のある文末表現 = 「～(な)のだ」「～のである」、自信のない文末表現 = 「だろう」に気付き、相手を説得するためのその他の表現の工夫も探ろうとする。</p> <p style="text-align: right;">○ワークシート</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>微生物の可能性は無限大だが未知であるために断定できないことや、題名にインパクトを持たせることによって、微生物は絶滅危惧動物と同じくらい大切にしなければならない存在であると理解してほしいなどの筆者の思いや考えに気付かせたい。</p> </div>